

会議録

会議の名称	第3回新城市多文化共生推進プラン（仮称）策定検討会議
開催日時	令和6年2月22日（木） 午前9時30分から午前10時45分まで
開催場所	新城市役所本庁舎3階 災害対策本部室2、3
会議の次第	1 あいさつ 2 議題 （1）新城市多文化共生推進プラン（案）について 3 その他 （1）令和6年度以降の動きについて
会議録の作成方法	要点筆記
出席委員	長尾晴香委員長、本多尚子委員長代理、小川順子委員、宮下利夫委員、河合恵元委員、白井雅人委員、仲西ハルミ委員
欠席委員	戸田由美子委員、マスコアドリアナ委員

1 あいさつ

委員長より簡単なあいさつがされた。

2 議題

(1) 新城市多文化共生推進プラン（案）について

パブリックコメントの結果、議員定例報告会で出た質問・意見、前回の会議で出た意見等をもとに修正したプラン（案）の主な変更・修正・追加点、プランの概要版（案）等について事務局から説明がされた。

《質疑応答・意見交換》

委員長	<p>これまでの会議の中で色々な意見を出していただきながら、このプラン（案）につながっている。</p> <p>改めてプランの最終案を見ていただき、気になる点や質問、意見等があればいただきたい。</p>
委員	<p>議員定例報告会の中で、外国人に日本語を覚えてほしいというような意見が出たとのことだが、プラン（案）にもすでに日本語教育を進めていくという内容が載っている。恐らくその意見を出した方は新城市がどのようなことをしているか、しようとしているかを知らないのではないか。それを知った上でそういう風に思うことは大事だと思うので、まず知ってもらった方がよいと感じた。</p> <p>新城市民にこのプランの中身を知ってもらうことがとても大事だと思うので、自分は日本人のママ友や外国人本人に、こういうことをやっているということを発信していくつもり。なので、議員さんがそういうことをまず把握していないことが問題だと感じた。</p> <p>もう1点、自分は学生時代にコンビニで働いており、外国人の利用はとても多い。そして、今はアルバイトでコンビニを選ぶ外国人が多い時代。だから、日本人がコンビニに入ったときに外国人がいることへの抵抗感が少しずつなくなっていると思う。</p> <p>その反面、外国人が日本の文化に怒れてしまうこと、反対に、日本人が外国人のことを怖いとってしまうこと等は色々あると思うので、市が介入することはないと思うが、何か外国人が不安に思うことを相談できる場所があるとよい。外国人の就職等のストレスについて連絡できる場所があると、外国人がストレスを溜めてしまうことも防げるのではないか。言葉が分からないと愚痴る人もいない。家族がおらず、一人で来ている人もいるため、そういうことから犯罪等につながる可能性も多分あると思うので、そういうことが減るのではないかと考えた。</p>
委員長	<p>まずはこのプランを啓発していくという話であったが、既にある事業などとの関連性も含めて啓発していかないと、プランの考えていることと、</p>

	<p>今あるものがまだまだつながっていないのではないかとこの指摘であったかと思う。恐らく概要版には、重点取組も含めたたくさんの施策が載っているが、今現在何をどういう順番で、どういう風に取り組んでいくのかというところがまだ見えない。そういったところについては、プランの細かいところを見ていただく必要があるので、それを含めて一緒に伝えていくということが必要になっていくかと思う。</p> <p>もう1点は、外国人が働く職場というところで、コンビニ等の日本人と接点を持つ場面がどんどん増えていく中で、仕事での不安などの相談に関しても、今現在も受けているとは思いますが、そういったことも含めて外国人の皆さんが安心できるような情報発信を含め、やっていくといいのではという指摘だったかと思う。</p> <p>職場という話に関連して、何か感じていることはあるか。</p>
委員	<p>自分の会社には、現在35人ほどのフィリピン人に来てもらっている。再来年には50人にしていこうと思っている。会社内では、日本語ではなくタガログ語が主流の会社になりつつある。そうしないとコミュニケーションが取れないので、日本人スタッフにはタガログ語か英語を勉強するよう伝えている。</p> <p>そういう世の中になってると思う。日本人だから日本語しか話せない、フィリピン人からしたら、日本人は英語が話せないと思われる。フィリピンでは英語を話せることが多い。日本に来てるんだから日本語覚えろというのは古いと感じる。お互いがその国の言語を話しながら、勉強しながら、コミュニケーションを取っていく努力が必要かと思う。</p> <p>それと、外国人の困りごと相談所みたいなものはあるのか。</p>
事務局	<p>市では、総合案内にある外国人相談窓口が一元的な窓口になっているため、相談内容によって相談員が各窓口へとつなげている状況。</p>
委員	<p>新城のすごいところは、〇〇さんを相談窓口に置いていること。自分が知っているブラジル人に聞くととても好評。なので、困ったときにはどんどん相談できるような人なのか、窓口なのかをもっとあると多分喜んでもらえるのではないかと思った。</p>
委員長	<p>日本語教育というのはもちろん大切であるが、今話にあったように、お互いの言語に興味を持つことなど、そういう中でコミュニケーションを取っていく。やさしい日本語の普及もそうだし、日本語教室の中でもそういった考え方があると思うので、そこも含めて、単に外国人住民に日本語を学んでいただくということだけではなく、日本人住民側への啓発も大切だという話だったかと思う。</p>
委員	<p>プラン案を新城市のホームページ等に載せていくということで、これは</p>

	<p>たくさんページがある。多言語の方は、各国の言葉で数ページとなっている。英語以外の言語は自分が読んでも全然分からない。だから、外国人も日本に来たら日本語が分からないと思う。</p> <p>要するにホームページにこの資料を載せたら外国人は内容が分かるのかということ。プラン案の厚い方は日本語だけで、概要版で数ページ分が多言語になっている。この状態で、外国人がこのプランの内容を分かってもらえるのかが心配。</p> <p>つまり、このとおり立派なプランができてきているが、これを周知することが一番大事だと思う。</p>
事務局	<p>概要版だけではもちろん伝わらない部分がたくさんあると思う。その辺はまずSNS等でしっかり周知していくことから始めて、中身の方も伝えていくことが必要だと思う。</p>
委員長	<p>来年度以降の動きという中で、実際に事業が動いていく背景にこのプランがあるということ等を、概要版では大きな絵を共有するような形で使っていくのかと思う。</p> <p>そのため、伝え方に関しては、御指摘いただいたように、まずはプランについて知っていただき、その中でどういう動きがあるのかを共有していくことが大切だと思う。</p>
委員	<p>日本に来ている以上、日本語を覚えてもらうことと、日本語教育というのは日本人にとっても大切であり、来ている外国人にとっても生活のしやすさ、生活の質にもものすごく影響してくると思う。そのため、覚えてもらうことはもちろんとても大切であるということはあるが、受け入れる日本人が、「日本に来たんだから日本語覚えて当然でしょ」という態度から入ってしまうと、何も分からずに来た外国人が不安に思ったり、反発心のようなものが生まれてしまったりということも考えられる。</p> <p>目指すところとしては、日本語を覚えてもらうことと同時に、自分たち日本人がまず外国人を受け入れて、自分たちを知ってもらおうと努力していくことで、自分が受け入れてもらってるんだという安心感が生まれる。その安心感があるのとないのでは、日本語に対する姿勢も全く変わってくると思う。</p> <p>そこで大切になってくるのがこのプランだと思う。なので、どちらが先、どちらが最重要というのではなく、同時に進行していける、同時に実現できていけるような姿勢でこのプランを心に置きながら、自分たち自身が推進していくべきものだった。</p>
委員	<p>自分は今岡山に引っ越してきたが、新城に自分の両親が住んでおり、友人もいるので、いずれは新城に戻る予定。そのときまで放置するのではな</p>

	く、つながっている人たちの意識はどんどん変えていきたいし、SNSの発信もしていくつもり。そして、自分も変わろうという意識もしっかり持って頑張りたい。
委員長	周知については、場所に関係なくできることだと思う。 生活のしやすさ、安心感という話も出たが、警察の立場から何かコメントがあれば伺いたい。
委員	先ほど相談という言葉が出たが、自分は警察相談の担当をして12年になる。警察相談の位置付けというものがあるため紹介したい。 警察相談は、犯罪等による被害を未然に防止するための相談や、県民の生活の安全と平穏に係る相談をいう。犯罪等による被害の未然防止というのは、ストーカーやDV等の警戒要望などで、県民の生活の安全と平穏というのは、近所トラブル、迷惑系であったり、契約上のトラブルなど。事件性のないものは行政の窓口を案内している。相談の記録を見ると、外国人相談という統計もあり、今年はまだない。去年は11件、その前は2件、その前がまた2件あった。内容についてはあまり言えないが、副業のことであったり、ストーカー的なこともあった。数は少ないが、外国人に限らず、全体的にそのような流れがある。
委員長	市役所の相談窓口だけではなく、警察での窓口についても知ることで、より安心して生活ができるかと思う。
委員	せっかくプランができたので、これをいかに外国人、日本人の双方が安心して過ごしていけるかということにつなげていくかが大事になってくると思う。 そのときに、先ほどどういう形でフィードバックしていくかという話が出たが、そこが大事になってくると思う。このプランについて、今後フィードバックを経ていく中で、こういうことを目指しているからこういうフィードバックが出てきたんだなというの、そういうところで伝わるところもあると思う。実際にプランを動かしていく中で、先ほどのアルバイトの話ではないが、ここも対策が必要だと新たに気付くことがあると思うので、そういったことも今後も引き続き、新都市の多文化共生の推進に活かしていけるとよいのではないかと思う。

3 その他

(1) 令和6年度以降の動き方について

令和7年度以降に実施する予定であるプランの施策の評価について事務局から説明がされた。

《意見交換》

委員長	説明にあったように、第三者の評価も受けながら進めていくということ
-----	----------------------------------

	<p>ろであるが、これまでの議論にもあったが、ぜひこんなことをやっていったらよいのではないかと御意見があればいただきたい。</p>
委員	<p>先ほどフィリピン人をたくさん雇用しているという話があった。職場で新城市が多文化共生推進プランを作りましたという情報発信をするともに、日本で生活している中での意見があるかを募集できるとよい。</p> <p>また、地域の回覧板でそういうことをすればどんどん浸透していくのではないかと。日本人の目にも外国人の目にも留まるし、これは何だろうというところがきっかけで進むこともあると思う。</p> <p>それと、警察署の交通ルールの貼り紙等に、小さくてもいいので、プランのことを載せて周知してもいいのではないかと。</p>
委員長	<p>周知をしていくというところで、皆さんからもそこがまず第一歩という話があったが、外国人を雇用している企業で、こういうプランができたというような周知の方法が何かないかということ。</p> <p>それから、地域の中では、回覧板に入れることで、日本人住民にも外国人住民にもそもそもプランができたことを知っていただくことが必要ではないかということ。</p> <p>そして、警察署や公共施設など、皆さんが利用するところでもプランの概要版でも見れるような環境をつくっていただけると、ホームページで見つけるというだけでなく、物理的に知ることができると思う。</p> <p>行政区長の集まり等で、こういった行政のプランができたということをお知らせする場は何かあるか。</p>
事務局	<p>毎年4月に、その年に区長になった方に集まっていたいて全体区長会というものを行っている。その中で、プランのことも周知したいと考えている。</p>
委員長	<p>そういった形で、ぜひ多くの方に知ってもらえるとよい。</p>
委員	<p>先ほどから色々と考えているが、こういったプランに基づいて自分の区で実施していくためには、どういうやり方があるのかと思う。</p> <p>区の中で28の組に分かれている。その中で、外国人世帯はそんなに多くない。ほとんどは、アパート住まいの方など組に属してない。組に入っている方については、すぐに情報が伝わる。ただ、そのときに日本語が分かるかどうかという問題があって、そしたら日本語ではなくポルトガル語で表記するか。自分はポルトガル語が全然分からないのでどういう風にしようかなどといった問題がある。じゃあ組に属していない外国人へは、どういう接点で情報を伝えていくか。市から全戸配布してほしいという情報は全て配っているが、それも恐らく読めない。なかなか外国人との繋がりを持ちにくい。以前にも話したかもしれないが、外国人世帯の中で二人組</p>

	<p>長をやってくれたことがあったが、そういう方は比較的分かりやすい。</p> <p>他の区ではどうやっているのか、参考意見があれば聞いてみたい。</p>
委員長	<p>プランの中で、区ごとにどれぐらいの外国人が住んでいるのかというデータもあるが、では実際にどうやって生活しているのか、組に入っていない人がいることはなんとなく分かるが、その人たちにどうやってアクセスしたらいいかという課題。これは全国にある課題。</p> <p>キーパーソンを見つけていきながらという話もこれまでにでてきたし、この場にもいる。色々なところでもっともっと見つかっていくとよい。</p> <p>企業の中でこういうプランの説明をするということはなかなかないと思うが、どのようにしたら従業員に共有できるのか、アイデアがあれば教えていただきたい。</p>
委員	<p>自分の会社にいる外国人は、技能実習と特定技能の在留資格を持っている方が多い。彼らには、SNSをとおして情報を展開することもできるし、全員の住所を把握しているため、直接説明に行くこともできる。そういう在留資格の方は割と会社が情報提供する。</p> <p>永住者などの資格を持っている方たちにどうやって伝えるのか。国籍ごとで代表の人、キーパーソンをつくれれば、その人にはかなり負担になってしまうが、そういう人ができるといいかと思う。</p>
委員長	<p>在留資格に着目して、技能実習や特定技能に関しては、事業者から情報提供をすることが有効ではないかということ。ただ、生活者、定住者、移住者については、キーパーソンを持ちながら情報発信をしていくことをしていけないと、なかなか事業者からだけでは難しいところがあるという話だと思う。</p> <p>他の自治体の例を見ると、外国人住民の会議体、多文化共生のワーキンググループであったり、外国人市民の会議というのを開いて、キーパーソンとして意見をもらうような会議体を持っているケースもあるため、どういった形でキーパーソンを発掘して、どういう風につながっていくのかは議論の余地があると思う。実際にキーパーソンの皆さんもいるし、技能実習や特定技能の中でも恐らくコミュニティというのがあったりするので、そういったことも探りながら情報発信をしていく仕組みというものが作られていくとよいと思う。</p>
委員	<p>施策の進行管理について、来年度公表するときにも恐らく報告書が出ると思うが、プランが現在どういう風に動いているのかということにアクセスしやすいとよい。例えば、報告書をすぐ見れるようなQRコードを概要版に組み込むと、今年度はこんな形で動いています、次年度はこういうことにさらに取り組む予定だということが見やすくなるかと思う。せっかく</p>

	いいものができたので、できる限り見える化できるとよい。
委員長	毎年進捗を報告書にまとめていくと思うが、ホームページでの公開に加えて、アクセスしやすいような工夫をしていくとよいのではないかと提案であった。
委員	新城に転入してくる外国人にこういうものを渡す仕組みはあるのか。
事務局	外国人の転入時に、市で行っていることや情報をまとめたチラシを配布している。その中に、今回のプランのことも載せる予定。
委員長	転入してきた際に、まず最初にアクセスできるような情報として準備がされていけばということであった。 国際交流協会としても色々と事業展開をしていくと思うが、何か意見はあるか。
委員	<p>プランの理念は、「地域の一員として認め合う その多様性がしんしろを創る」ということで、日本人、外国人を問わず、新城の地域の人として生きていくことをみんなで目指していくということだと解釈している。</p> <p>新城市ではこれから多分特定技能の方が増えてくると思うが、その家族の帯同が可能になって、妻や子どもを呼び寄せて、家族で住むということも増えていくのではないかと思う。</p> <p>自分が学生時代にアメリカに住んでいたことがあり、アジア系やその他の国のルーツがあるが、アメリカで生まれ育った人たちと話すことがあった。両親はアジア人だが、自分はアジアではない国で生まれ育つと、心の中で自分が何人かというのをものすごく悩んでしまう。親の母国とは違うところで自分は子どもの頃から育て、自分としては馴染んでいるつもりでも、親はそこで生まれ育っているわけではないので、親の文化と自分が思っている文化も違うということを思い悩む人が多かったと聞いている。</p> <p>協会としては、新城で育っていく人たちや、呼び寄せられたり大人になってから仕事で来た人たちが、自分を新城の人として認識するにはどうすればよいのかを考えていくと、新城のことを知ってもらうことがとても大事だと思う。日本人でもそうだが、新城の昔からある伝統を知ったり、歴史を知ったりそれを体験していくことで、自分や自分が育った場所のルーツを知り、自分はそこ人間なんだということを感じ、自然に愛着などが生まれていくのではないかと思う。そういうところも含めて、日本人にも外国人にも新城の歴史や文化を含めて地域のことを知ってってもらう。その上で、先ほどの日本語教育などにも自然とつながっていくと思うので、そういったことも意識しながらこれからの事業を展開していきたいと思う。</p> <p>それから、前回の会議の中でもあった日本人と外国人が日常的に交流が</p>

	<p>できる、その場に自然にいられる場所づくりというのを進めていくことが大事だと思った。</p>
委員長	<p>まさに今回のプランのライフサイクルに応じた支援ということで、今話にあった家族を呼び寄せてくるというところで地域にどう馴染んでいくのかという、ライフサイクルに応じた視点というものを持っていきながらの協会としての事業展開であるとか、日常的なつながりということも意識して、今後、進捗の確認もされていくと思うが、そういった地域での課題というのを皆さんからも出していただきながら、その場その場での課題にどのように向き合っていくかということが、今後の議論として進められるとよいと思う。</p>
事務局 (課長)	<p>新年度、このプランに基づいて市として実施していくことになるが、ここに書いてあるように重点施策を含めて施策に取り組んでいきたいということは、新年度の予算の中でも取り上げている。</p> <p>生活オリエンテーション動画というのも新年度にまず始めに作る予定。国の補助を受けながら6言語で作成し、市民課へ来た転入者や相談者等に生活ルールなどを紹介できるよう予算化している。</p> <p>それから、プランの評価を今後していただくというところで、今後5年間の間で多文化共生に関する予算がどれぐらい必要かを把握するため、現在庁内の各課へ照会をかけており、評価に合わせてどのぐらい新年度予算を要求するのかを、総合的に事務局の方で取り上げていきたいというようなどころもある。</p> <p>また、皆さんの話の中で、このプランができたことを知らなければいけないという話もあった。プランを作る上でも、可視化することが一番の目的でもあったと思うし、外国人が市ではこういったことに取り組んでいるんだという安心感を与えることが大事だと感じている。これをどうやって知らせていくかということがやはり大事になる。ホームページはもちろんのこと、SNS等で知らせていく形にはなるが、あらゆる形でお知らせできればと考えている。</p> <p>そして、地区の区長さんが集まる会議の中で代表区長会という会議があるが、その中でも広報がうまく伝わらないという話があり、現在、新城市の広報には日本語版しかないため、新年度に向けて広報の担当と話をし、多言語のページを作っていくような話を進めている。その中で難しいのは、日本語の広報紙の中に多言語のページができる予定なので、外国人にまず日本語版の広報紙を手にとってもらえるのかということが心配。そのページだけポスティングするにしても、今度は区長さんや組長さんへの負担が大きくなってしまう。この周知について色々と検討している段階ではあ</p>

	<p>るが、今後も考えていきたい。</p> <p>この1年間で皆さんから色々と御意見をいただき、プランが完成することとなった。市長もマニフェストの中で多文化共生について取り上げている状況で、特に気にしている部分。この秋口から、市長がどこかへ行ってあいさつをするときに、新城市の人口が減っているという話をしながら、今後はこういった多文化共生の社会が始まるから、皆さんも一緒にまちづくりの一員として考え、取り組んでいきたいと思いますということを、様々な場で言っている。市長もとても大事なことだと認識しているので、今日この場にはいないが、代わりに申し上げさせていただき、この会を締めさせていただきます。</p>
委員長	<p>広報紙の多言語対応ができるようになったら、表紙のどこかに多言語があることを載せれると、広まっていくのではないかと思う。</p>

閉会